

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 25 年度

事業所番号	2775502194		
法人名	医療法人 幸晴会		
事業所名	こうせい苑グループホーム		
所在地	大阪府八尾市北木の本5-6-1		
自己評価作成日	平成 25年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成 25年 10月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2775502194-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 25年 9月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

質の高いサービスが提供できるよう研修会の参加や、自主的な勉強会を多く設け、認知症ケアの専門性の向上に向けて、又、利用者様が生き生きとした表情を少しでも多く見られるよう、「優しく・親切・丁寧」「目配り・気配り・心配り」をモットーに日々研鑽しています。医療面では、母体の医療法人クリニックと連携を密にしており、利用者様・家族様共に安心して頂ける環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営する開設9年目のグループホームです。母体の医療法人と連携を図り、利用者や家族の要望に応じて、可能な範囲で看取りに取り組んでいます。また、この数年、運営推進会議などを通じて地域とのつながりが拡がり、ボランティアや園児など、外部からの来訪者も多くなりました。職員は理念をもとに、利用者のできることを引き出し、声かけや見守りを行いながら自立を支援し、理念を日常のケアの場で実践しています。ごみ出し、新聞を取りに行く、花を育てる、庭の花を見に行く、夕涼みにベランダで過ごすなど、自由がきく環境と共に生活を楽しむ職員の姿勢が、利用者の日常生活の自立につながっています。また、その環境の中で、利用者同士、職員と利用者の関係が構築され、喜怒哀楽の感情も自由に表現でき、会話が弾み、笑い声が響き、利用者は笑顔で過ごしています。また、明るいゆったりとしたガラス張りのリビングから、広いベランダへ自由に出ることができる等、人的、物的な環境にも恵まれたグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成しており、事業所内に掲示している。日常的に確認し、常に意識を持つよう心掛け、全職員で共有、実践につなげるよう深く浸透するよう努めている。	目配り・気配り・心配りの「個別・自立支援」、優しく・親切・丁寧で「その人らしさを尊重」、地域と和合して「安全・安心」を理念に掲げ、職員一同理念の実現に向けて取り組んでいます。「笑顔の真ん中にはいつもあなたが」を職員は実践しています。フロアには、利用者同士の笑い声が響き、利用者、職員の笑顔があります。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議などで情報交換をさせて頂いたり、地域の方がボランティアとして訪問して下さったり、近くの園児とも定期的な訪問をして頂いている。又散歩の途中に立ち寄るなどお互いに交流している。 地域の「ふれあい祭り」にも参加している。	運営推進会議の参加者から協力を得て、コーラス・フラダンス・大正琴・ギター演奏・書道など、多くのボランティアがホームに訪れることにより、社会とのつながりが広がりました。利用者も来訪者に対して、おもてなしや心配りをしています。また、地域の園児が定期的に訪問し、一緒に七夕の笹飾りや季節の作品を創作して壁に掲示するなど、楽しく交流しています。地域のふれあい祭りでは、ホーム専用の席を設けてくれるなど、地域にホームが周知され、交流を深めています。ホームも中学校の職業体験の受け入れや、地域の廃品回収に貢献しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症に関する研修の内容を議題にしたり、その時々話題になっている事をお話しさせて頂き、質問にも答えている。 地域の方からの相談にも可能な限り、支援の方法など相談に乗っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所の委員、高齢クラブ、民生委員、利用者のご家族の皆様に参加して頂き、2ヶ月に1回開催している。サービス向上にむけた取り組みや実施したサービス、地域との交流、特に取り組んだ事などの報告を行い、助言・意見などを頂いている。その記録も回覧を行い、サービス向上に活かしている。その場で参加者の方とボランティアの話がまとまったこともあります。	運営推進会議は、規程・規約を作成し、2ヵ月に1回開催しています。運営推進会議は、利用者、家族、民生委員、高齢クラブ、市の職員で構成されています。会議では、グループホームの行事やホームが取り組んでいる学習会などを紹介しています。地域からは、地域行事の情報を得ています。運営推進会議で地域の消防団(防災会)との交流ができ、避難訓練などの助言が得られ、利用者の生活の安全につながっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課とは、常に相談出来る環境にある。運営推進会議の委員のご紹介もして頂いている。	市の職員が中心となり、グループホームの連絡協議会が定期的に行われています。市や他の事業所と連携を図りながら、認知症の人が地域で安心して暮らせるように、空室の情報交換やホームの見学会など、サービスの質の向上に向けて交流を図っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修でも周知徹底を図り、職員は身体拘束をしないケアを理解しているが、帰宅願望の方がおられ、職員の目が行き届く時間帯のみ暗証番号制を解除している。今後も入居者様の状態を見ながら日中解除に向けて取り組んでいきたい。外出希望があった時は出来る限り付き添っている。ベランダへも自由に出入りできるようにしている。	研修を実施し、身体拘束や人権についての理解を深めています。玄関や各フロアのエレベーターは、可能な範囲で開錠しています。また、ベッドからの転倒防止や不安感を取り除くため、利用者の様子を見ながら拘束するのではなく添い寝をして対応したこともあります。リビングから、自由にベランダへ出られるようになっており、市街地やホームへの人の出入りなど眺め、開放感ある自由空間を提供しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外での虐待に関する研修に参加、伝達研修で職員全員学ぶ機会を作っている。日々の生活の中で利用者の身体の確認をし、職員間で情報を共有している。職員のストレスが溜まらない様仕事上での悩みや思った事を職員同士で話し合える環境になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用されている利用者様がおられる。 今後も必要性を関係者と話し合い、活用できるよう支援していきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退去時には、面接にて不安なことや解らない事等を十分に話し合いご理解、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者様、ご家族様に参加して頂き意見を聞いている。面会時や計画書説明時等にも家族の意見や希望を聞いている。 玄関に意見箱を設置し、面会簿にも意見を書いて頂くスペースを設けている。 苦情受付窓口や市、府などの窓口を重要事項説明書に記載している。	「ふれあい新聞」を発行し、通信欄も設けて、利用者のホームでの様子を家族に伝えています。家族の来訪時には、職員から積極的に働きかけ、家族が意見や要望を出せるよう努めています。家族交流会では、利用者と家族が一緒に居室のネームプレートを作成しました。交流会の場を設けることにより、家族間の交流や、職員とのより良い関係構築に取り組んでいます。また担当制を取り入れ、気づきノートを活用し、利用者の意見をできるだけケアに反映できるよう、カンファレンスで話し合っています。	更なるステップとして、今後家族へアンケート等を実施し、日頃の生活での要望などを確認されてははいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と接遇セルフチェックリストに記入後面接を行い、意見等を聞いている。 又、全体会議等でも発言する機会を作り、出された意見を反映させている。	管理者はセルフチェックリストをもとに、職員と面談を行い、要望や意見を聞く機会を設けています。法人として、人事に関する希望調査も行っています。また、管理者は職員にとって働きやすい職場環境を提供したいと考えており、利用者の受け入れや運営についても職員と話し合いながら進めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が専門職としての目標や充実感を持ち、業務に取り組めるよう研修や勉強会を通じて、意識を高められるようにしている。 又、働きやすい職場環境作りに配慮し、職員の定着に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の事業所間で、内部研修を行ったり、資格取得などの対策講座を開催したり、施設外での研修の機会も積極的に設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業所連絡協議会やグループホーム分科会、大阪府グループホーム協議会に参加し、他施設の見学や情報交換、勉強会の場に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にその方の開示されている情報を把握した上で、入居時から本人の様子、言動等を「気づき」として詳しく記録し、職員全員で統一した対応をできるようにし、安心の確保に努めている。又、1対1になれる場面で、より一層ゆっくり話を聞き、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時はもちろんのこと、面会時や計画書説明時に本人の様子を伝え、家族様の思いを汲み取り、信頼関係を築けるよう努めている。介護記録はいつでも自由に見て頂ける様声を掛け、希望があれば、コピーを渡している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」まず必要とされている支援を見極める為じっくりと話を聞き、色々な提案もできるよう自分の知識も深める努力をし、最善の対応が出来るよう努めている。少し生活した段階で、どんな想いでいるかの再確認と改善もしていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで色々な人生を歩んできた先輩達から学ぶことは多く、私達が支えて頂く場面も日常の中に数多くある。職員の精神的な面まで気づかってくれる方もおられ、救われている。 共に助け合い、喜怒哀楽を自由に出してもらえような関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族背景も考慮しながら、折に触れ、本人の様子や対応方法等を伝え、支援の仕方を一緒に考えている。 入居者様にとって家族様は大きな存在なので、支援していく上で協力をお願いし、共に支えていく関係を続けていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前 1 階デイサービスを利用していた方は、デイの馴染みの方や1階職員と交流できるよう会いに行っている。家族様と昔よく行っていた喫茶店を訪れたりしている方もおられる。	入居前の生活歴を把握して、利用者を取り巻く関係について記録し、職員間で情報を共有しています。また、利用者の馴染みの喫茶店やスーパー銭湯、スーパーへの買い物、神社などの馴染みの場所に職員と一緒に出かけしています。友人からの手紙が届いたり、家族と一緒に出かける時間を大切にするなど、入居前までの関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格、身体状況、認知症の程度を把握し、利用者同士の関係を見守り、支え合えるような支援に努めている。利用者同士だけでコミュニケーションを取るのが難しい時は、職員が間に入り、関わり合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が亡くなった後でも家族の方がボランティアとして来て下さったりしている。 契約が終了しても何かあれば気軽に相談できる関係を続けていけるよう、日頃から心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者一人ひとりの言動、様子に関心を払い、直接話を聞いたり、表情などからも希望や意向の把握に努めている。申し送りやカンファ等で本人サイドに立った考え方を基に検討している。	職員のサポートを受けながら、利用者 は自治組織「白百合町会」を運営して います。利用者が司会をして、日々ど のような暮らしをしたいか、行事の計画 や遠足の場所などを話し合っています。 職員は利用者の発言を記録に残し、一 人ひとりの希望や意見の把握に努め、 ケアに活かしています。昔の仕事や趣 味を活かして、ハーモニカ演奏をする 方、行事の掲示物を書で書く方、リビ ングの植木や蘭の花を育てる方など、 一人ひとりの思いや希望を把握し、役 割を持ちながら生活できるよう支援し ています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし 方、生活環境、これまでのサービス利用 の経過等の把握に努めている	家族からの情報やそれまで生活し、利 用していた所からの情報提供、そして 本人から日々話を聞きながら情報収集 をし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状 態、有する力等の現状の把握に努めて いる	日々のケアの中で、又は記録、申し送 り等により、様子やできることの把握 に努めてる。毎日のバイタルチェック、 顔色、表情、いつもと違う様子等で見 逃すことのないよう観察し、把握に努 めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族、職員の意見を踏まえ、訪問看護師や主治医の意見と合わせ、カンファレンスを行い、全てのアイデアを反映させ、現状に即した介護計画を作成している。 毎月モニタリングを行い、3～4ヶ月に一度のカンファにより見直しを行い、状態に変化があれば、その都度意見を出し合い見直しをしている。	介護計画作成は、家族や利用者と話し合い、3～4ヶ月に1回見直しをしています。介護計画書に沿って日々実践し、毎月、利用者一人ひとりに対し、担当者及び職員が目標に沿って評価を行い、カンファレンスで全体の意見をまとめています。また、翌月に家族の訪問時、同意の署名・捺印をもらっています。毎月モニタリングを実施し、変化や課題の情報をつかんでいます。介護支援専門員もケアを通して、常に利用者に関わり、職員と共に情報収集し、介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づきを細かく記録した個別記録や申し送りで情報を共有し、声掛けや対応の仕方を職員同士で話し合い、工夫しながら業務にあたっている。日々の様子から変更が必要と思われる時は、意見を出し合い、介護計画の見直しを行って。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に変化があれば、その都度相談し、柔軟に対応できるようにしている。 嚥下機能が低下し、発語の減った方に言語聴覚士によるリハビリを受けて頂いたりもした。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	すっかり顔馴染みとなったボランティアさんとの交流とともにハーモニカ演奏にて参加される利用者もおられる。又率先して給仕してねぎらいの言葉を掛ける入居者様の姿もある。本人の力を発揮し、豊かな暮らしが送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の往診、定期検診、随時の受診も行っている。専門(内科)以外の受診は、家族様と行かれています。又、その他の病院の受診が必要となった場合は、家族様と相談し、職員が付き添う事もあります。	医療連携24時間オンコール体制を整えており、看護師による日常の健康管理、月数回の医師による診療が行われています。受診は、事業所の提携医を強制することなく、説明と同意を得て医療機関との直接契約となっています。利用者、家族の希望を大切にしています。入居以前からのかかりつけ医が、ホームへ往診に来てくれるようになった事例もあります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制になっており、訪問看護師に日々利用者の様子を伝え、変化があればその都度報告、相談している。受診が必要な場合は、家族とも連携し、速やかに受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院関係者との情報交換に努め家族も交えて安心できるような関係作りに努めている。 又、他院通院中の入居者様に変化があった場合、受診日以外でも電話で相談できる関係である。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「緊急対応及び看取りに関する指針」を定め入居時に説明している。 段階ごとに家族の意向を確認しつつ、医療と連携し、苑として対応できる内要を全職員が把握し、実践できるようにしている。不安な部分があれば、看護師の指示を仰ぎ、本人、家族にとって一番良い方法がとれるよう連携し、支援している。終末期に関する研修にも参加し、伝達研修を行い、職員の知識と心構えの強化にも取り組んでいる。	「緊急対応及び看取りに関する指針」を定め、入居時にホームの方針を説明しています。また、重度化により、必要が生じた段階で、医師や看護師の協力を得て「ターミナルケア同意書」の説明を行い、同意書を交わしています。利用者、家族の要望により、これまでも看取りに取り組みました。その都度、医療機関の協力を得て、終末期のケアの学習会を行っています。学習会を行うことで、職員が安心して利用者に関われるように取り組んでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてのマニュアルがあり、事故発生時や緊急時の対応についても研修で学んでいる。職員は、普通救命講習に定期的に参加し救命技能を修得するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルもあり、避難経路の確認や消防署立ち合いのもとあらゆる場面を想定した避難訓練を行い、災害に備えている。又運営推進会議等でも地域の方と協力体制が取れるよう話合っている。 平成 23 年 2 月スプリンクラー設置。	消防署の指導を受け、年2回以上の避難訓練を実施しています。消防訓練では、消火器の実演や利用者と一緒に非常階段を使用し、避難経路を確認しました。運営推進会議を通じて地域の防災会の協力も得られ、地域を巻きこんでの訓練を行うことができました。備蓄は各フロアで管理し、懐中電灯など2カ月に1回、点検を行っています。消火器やスプリンクラーが設置され、災害発生時のマニュアル、連絡体制も整っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の自尊心を傷つけることのないよう声掛けのタイミングや声のトーンにも気を付けている。排泄時は、耳元で声を掛けるようにしている。一人ひとりの性格や出来ることを把握し、誇りに思っていることを引き出し、日々の生活の中で発揮できるよう支援している。プライバシーについて内部研修等で職員それぞれが学び、考え、話し合い、それを生かして入居者様に接している。対応が出来ていないと感じた時は、職員同士確認し合い、修正し合える職場でありたいと思っている。	職業倫理、利用者の人権やプライバシーの保護、コミュニケーションなどについて学習会を実施し、職員の意識を高めています。職員は、利用者のできることを引き出し、できるだけ自立できるように、目配り、気配り、心配りを忘れず、その人らしさを尊重したケアを心がけています。「植物を育てる」「新聞を読む」「音楽を楽しむ」「日に数回清拭」「書を楽しむ」など、利用者一人ひとりの生活や生き方を尊重し、そのための環境を整えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	入居者様とコミュニケーションを取る中で、思いや願いを聞き、又本人の表情や様子から思いを汲み取り、希望を引き出せるような声掛けをし、本人が納し、自分で選択できるような対応を心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	申し送りの内容も考慮し、その日の入居者様の体調や気分に沿った一日を過ごせるよう支援している。日中入居者様の好きな所で過ごしてもらっており、希望や介助が必要な時は、付き添っています。食事・入浴・レク等声掛けはするが、その時の状態に応じて時間をずらすなどしている。食事は希望に沿って部屋食もして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容では個々の個性や希望に合うようお願いしている。自分で服を選んだり、本人が納得いくまで鏡の前で身だしなみをして頂いている。 自己にてできない場合は、入居者様の体に合った着やすい気温に合った服を選ばせて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食と夕食の食材は、業者より食材を調達しているが、入居者様の好みなども考慮して変更したり、行事時やその他、定期的に食材を止め、より楽しめるメニューにしている。準備や片付けに入居者様が関わる割合はとても大きく、日常的に一緒にしている。又一人ひとりの力が、活かせるよう関わり、それぞれが出来る範囲で、役割分担も定着している。	昼食と夕食は業者から食材を購入していますが、朝食は近くのコンビニへ利用者と一緒にパンを買いに行きます。また、毎日業者からの食材で調理するのではなく、定期的にホーム独自で利用者の好みに応じてフロア毎にメニューを作成し、利用者と共に食材購入に出かけます。食事の準備は主に職員がしますが盛り分け、下膳、テーブル拭き等は利用者ができる範囲で行っています。台所の設えにも工夫があり、キッチンの中は広く、出入り口が2箇所作られて利用者が出入りしやすく、気軽に食事の準備に関わりやすい作りになっています。職員は利用者と同じものを食べながら、さり気なくサポートを行い、楽しい雰囲気ですることができるように支えています。日常会話の中から利用者の好みを聴き取り、おやつ作りや外食に出かけることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録、毎月の体重測定により把握している。一人ひとりの状態に合わせた形態にに対応している。食事量の少ない方には、補助食品を摂って頂いたり、摂取しやすい時間帯を把握して水分提供をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて介助を行い、口腔状態を確認している。又、口腔ケアスポンジなど本人に負担のかからない物を使用し、一人ひとりの状態に合わせてケアするようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレのサインを感じ取れた時や時間を見計らい、声を掛け付き添っている。パットを使用している方もトイレで排泄できるよう支援している。トイレ内は、そっと見守り足りない部分を手伝うようにしている。	職員は細やかな排泄記録を取り、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣、仕草等、トイレのサインを把握しています。利用者のサインを見逃さず、さり気なく声をかけ、トイレ誘導を行います。トイレ内ではゆったりと見守り、職員が手を出し過ぎずに待ち、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらい、身体をよく動かして頂く。又、腹部マッサージ等にて排便を促している。 医師や看護師とも相談し、その方に合った便薬を処方してもらい、排便の状態、回数によって調整し、予防に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の間隔があいた方から声を掛けさせて頂いている。「温泉の日」など入浴剤を入れたり、ゆず湯・菖蒲湯なども楽しんで頂いている。入りたくない時や時間帯の希望がある時は、意向に沿えるよう心がけている。個々のペースに合わせて楽しく入浴して頂けるよう支援している。	基本的に2日に1回、週3回入浴を行っています。個人の希望にも常に対応し、毎日入浴や足浴をする利用者もいます。入浴剤を使用したり、柚子湯や菖蒲湯等、利用者がゆっくり楽しみながら入浴できる工夫をしています。今後利用者の重度化を想定して入浴方法等について検討を始める予定です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中出来る限り活動性が高まる支援を行い、夜間心地よく眠れるよう支援している。寝不足や体調不良の時、希望があった時など自由に休息できる環境を作っている。入居者様の状態を見て就寝介助を行い、室温や採光にも配慮している。自己にてできない方には、職員同士で話し合い介助によりゆっくりとしてもらえる支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リスト以外にも服薬内容を職員にて作成し、個別介護記録にファイルし、常に確認できるようにしている。服薬に至るまでのチェックと服薬時の確認を行い、確実な服薬支援に努めている。錠剤が無理な方には、粉砕にするなど、確実に服用できるようにしている。又、薬の変更があった場合も日々の様子に注意し、詳しい記録と看護師への報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道・計算・塗り絵・お菓子作り・裁縫等一人ひとりの力を活かし、日々生き活きと過ごせる様支援している。入居者様の好きな歌や踊りなど日常的に取り入れ、個々でも皆でも楽しめるよう努めている。自ら花に水をあげたり、イチゴをつんで食べたり、行事の時の挨拶文を自ら考え書いたりもしておられます。嗜好品や気分転換は、家族様にも協力を仰いでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など日常的に声掛けをし、徒歩や車で外出している。外出出来ない時は、ベランダに出たり、1 階へ降りて外気浴をし、外の空気を味わって頂いている。 家族様にも協力して頂き、外食や散歩に出かけられる方もおられる。	天気の良い日は、毎日順番で散歩に出かけます。近くのコンビニやスーパーへも買い物に出かけます。近所を散歩する途中で、地域住民から声をかけられたり、挨拶を交わしたりする楽しみもあります。気分転換でホーム前の道を通り、庭の花を眺めたり、野菜の成長を見に行きます。最近では庭の無花果が実り、皆で分け合いました。遠方の外出や個別外出は、家族の協力を得ながら実施しています。地域からお誘いを受けて、盆踊りや地域の行事にも参加します。2階のベランダで外気浴も楽しんでいます。ベランダには椅子、テーブルが置かれ、季節の花も植えられてゆったりと過ごします。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望によりお金を所持している方はおられる。その事により新たな不安が生じる場合もあるが、それが生じない様支援している。買い物に行った時にお好きな物を購入したり、支払いをお願いしたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば、自由にやりとりができるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダにて育てている季節の花を生けたり、季節に応じたカレンダーや壁飾りを入居者と共に作って、季節を感じて生活して頂けるようにしている。書道作品や行事の写真を貼り、楽しんで頂ける様工夫している。共に生活している事がわかるように廊下に入居者様と職員の顔写真を貼っている。 台所は、カウンター形式になっており、調理中も会話ができ、料理の音や臭いを感じることができる。	ホーム内のロビーは広くて明るい雰囲気です。壁には近くの保育園児と一緒に作った「りゅうかの木」の貼り絵があり、その他季節の絵、習字、数々の貼り絵等利用者の作品で飾られています。明るい窓際にはゆったりとソファが並べられ、窓からは町の様子が眺められます。片隅には小さな和風空間も用意され、洗濯たたみや手工芸の作品作りの場として利用しています。2階の広いベランダにはベンチやテーブルを置き、季節の花も植えています。利用者はいつでも自由にベランダに出て町の動きを眺めながら外気浴や気分転換の場としても利用しています。廊下の壁面には利用者の顔写真を貼り、笑顔で訪問者を迎えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置を工夫したり、リクライニングソファを置いたりし、過ごしやすいよう工夫している。置コーナーやソファ等自由に座ることができる空間がある。又、ベランダにも自由に出る事ができ、皆様思い思いに過ごしている。一人になる事も大事なので、見守りながらさりげない対応をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物を持参して頂き、それまでの生活を感じてもらえるような部屋作りを家族と共に行っている。家族様の写真や好きなぬいぐるみなども飾って頂き安心して過ごせるようにしている。	居室の入り口には、家族と共に作った各々のネームプレートを掛けています。室内は明るく使い慣れた家具や仏壇、ドレッサー等を置き、家族の写真を飾っています。ハーモニカやトランペットが趣味の利用者は、演奏時の大きな自分の写真を壁に貼っています。また、手芸や木彫りが得意だった利用者は自身の作品を持参し、ぬいぐるみの好きな方はベッドの周りをぬいぐるみで飾っています。中には市内で和菓子の講習会に参加した時の修了書を、誇らしげに飾っている居室もあります。利用者一人ひとりが、個性のある居室で過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりも設置し、安全に歩行したり立ち上がることができるよう配慮している。本人の行動を把握し、認知症の進行度合いにも配慮しながら障害となる物は置かないようにしている。居室には、ネームプレート、トイレにも表示をし、場所が分かる様にしている。		